

特別展 笠原のたからもの ～地域の文化と担い手たち～ を開催します。（多治見市モザイクタイルミュージアム）

本展は、多治見市モザイクタイルミュージアムの建つ、笠原町というまちを彩ってきた文化と、その担い手となった人々をご紹介します企画です。

岐阜県の南東の端に位置する笠原町は、タイル製造が始まる何百年も前から、美濃焼の主要産地のひとつとして知られ、古窯跡も少なくありません。その一方で、7世紀前半と言われる古墳に始まり、やきもの以外にも様々な文化が生まれ、育まれてきました。今回は、中でも特筆される文化遺産や影響力をもった人々について、笠原町や多治見市が保管してきた作品、資料を中心に展示します。これによって、タイルだけではない「笠原のたからもの」を、改めて見直す機会となれば幸いです。

主催 多治見市モザイクタイルミュージアム

後援 多治見市教育委員会

会期 2017年1月4日（水）～4月16日（日）

開館時間 午前9時～午後5時（入館は4時30分まで）

休館日 月曜日（休日の場合は翌平日）

料金 一般300円 高校生以下無料（常設展示もご覧いただけます）

※20名以上の団体は250円

会場 多治見市モザイクタイルミュージアム 3階ギャラリー

多治見市笠原町2082番地の5

電話 0572-43-5101 FAX 0572-43-5114

URL <http://mosaictile-museum.jp>



モザイクタイルミュージアム外観
©Akitsugu Kojima



笠原の景色より

見どころ

- ①「狐塚古墳」の「勾玉・耳環」が約40年ぶり(ただし2017年1月後半から展示)、
「双龍環頭柄頭(そうりゅうかんとうつかがしら)」が約130年ぶりに、
笠原に帰ってきます。

…狐塚古墳は、かつて「笠原真人」の墓と言われたこともある、古代の笠原を象徴する文化遺産。記録によれば、出土した遺物は明治22年に国に売却。勾玉と耳環は昭和49年(1974)に東京大学総合研究資料館(現博物館)が所蔵していることが明らかになり、借用されましたが、柄頭は行方不明と言われていました。平成5年(1992)天理大学付属天理参考館で発見、展示されましたが、多治見で展示されるのは今回が初めてです。

- ②美濃焼の研究に大きな影響を与えた「妙土窯」の資料展示、
当時、直接発掘に参加された竹内順一氏の講演会を開催します。
③林雲鳳をはじめとする笠原出身の物故作家を紹介します。



双龍環頭柄頭(多治見市笠原町狐塚古墳出土)、天理大学天理参考館蔵



各務鑲三<花器> 多治見市教育委員会蔵

関連企画

講演会

「素晴らしい織部を見た! —妙土窯発掘の思い出にふれて(仮)—」

講師 竹内順一(東京藝術大学名誉教授)

日程 2017年3月11日(土)午後1時30分より

会場 笠原中央公民館(岐阜県多治見市笠原町2081-1)

申込 FAXまたはメールにて、定員100名(先着)

※その他、街歩きなども企画予定。

広報、取材をいただきたくお願いいたします。